

平成 21 年 5 月 29 日現在

研究種目：基盤研究 (C)
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19611024
 研究課題名 (和文) 博物館危機管理としての市民協同型 IPM システム構築に向けての基礎研究
 研究課題名 (英文) Integrated Pest Management for Museum for Museum Crisis Management —Approach by the Citizens Cooperation—
 研究代表者
 本田 光子 (HONDA MITSUKO)
 独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部博物館科学課・課長
 研究者番号：60289642

研究成果の概要：

博物館における IPM 体制維持のためのボランティアの導入、育成 (直接参加型市民活動) プログラム策定について、スタートすることができた。2 ヶ年で 9 回の市民参加研究会を開催しその成果については、「市民協同型 IPM 活動研究会—発表の記録と資料」として 320 頁の報告書を作成した。また一般公開収録 DVD により博物館ボランティア研修会等市民向けに活用し、博物館危機管理としての IPM の普及をはかっている。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2008年度	1,600,000	480,000	2,080,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：博物館学

科研費の分科・細目：—

キーワード：博物館、文化財、危機管理、生物被害対策、IPM (総合的有害生物管理)、市民協同型 IPM 活動、環境ボランティア、IPM ボランティア育成プログラムモデル

1. 研究開始当初の背景

近年、世界の博物館、美術館、図書館等では文化財、作品、図書、資料等の生物被害対策として、これまでの化学薬剤使用から、日常管理を基本とする IPM (総合的有害生物管理) へと転換しつつある。我が国でも、文化財の燻蒸剤の臭化メチルがオゾン層破壊物質として使用全廃となったことを期に、薬剤だけに頼らない、モノ・ヒト・環境にやさしい文化施設の運用が目指されるようになってきている。

しかしながら、実際に我が国の博物館美術館では、IPM 活動を組織的に実施する施設は多くなく、依然として代替薬剤による定期的大規模燻蒸が実施される施設も多いのが実状である。

そこで、博物館においても、いかにして社会的要請である環境に配慮した IPM 活動をすすめるか、という問いに答えるために、市民の意見や活動を直接的に取り組みながら、共に答えを見つける方法を選んだ。

2. 研究の目的

上記の背景により、博物館の危機管理の一貫として、その生物被害対策に環境配慮の思想から生まれた IPM を市民と共に実践するシステムを構築するための基盤をつくること。

- (1) 市民への IPM 広報普及
- (2) 市民による IPM 活動のスタート
- (3) 市民参画の博物館危機管理

3. 研究の方法

- (1) 市民参加型研究会の開催
 - ①平成 19 年度 (5 回) 参加者延 320 名
 - ②平成 20 年度 (4 回) 参加者延 340 名
- (2) 市民ボランティア、NPO 法人による研究成果報告書作成

4. 研究成果

(1) 市民への IPM 広報

文化財保護活動への市民の直接参加は、極めて時勢に適ったテーマであり、これまでも博物館や美術館等多様な文化施設をステージとしてボランティアや NPO 法人の活躍が展開されている。そうした中で、市民への浸透が比較的遅い IPM 活動を従来とは違った観点から取り組んだ。つまり、文化財の保存管理というこの分野は、一般には学芸員や専門家のみが携わってきていたが、市民による直接参加も条件を整えることで可能となる。本研究による研究会などへの延参加者数は 600 名を超え、大変熱心に活動に取り組む市民の姿がそれを証明している。本テーマおよびその実践計画の社会的妥当性が確認できた。

(2) 市民参加の研究会開催

モデル構築の一環として、9 回の「市民協同型 IPM 研究会」と 3 回のワークショップを開催した。研究会については、一般公開は各年度 1 回とし、他 7 回は、基本的には九州国立博物館ボランティアや地元 NPO 法人等既に何らかの IPM 活動経験者に絞り、実践的なテーマで実施した。19 年度研究会参加者の中から、20 年度研究活動の実質的作業を進める市民グループが形成される地盤が整い、着実に計画を進めることが出来た。

(3) 研究会と市民 IPM 活動の成果

研究会を重ねることで、博物館における IPM 体制維持のためのボランティア活動プログラム作りのスタートができた。また、九州国立博物館では、IPM 関連業務への地元 NPO 法人の導入も順調にすすみ、直接参加型市民活動としての IPM による博物館危機管理システムの構築に向けての計画を着実に進めることができた。

研究会の成果については、研究発表、事例報告については、全記録を 320 頁の報告書として印刷刊行した。その他収録 DVD により、

引き続きボランティア研修会等市民向けに活用、普及をはかっている。

(4) 研究発表・事例報告

19 年度第 1 回

- ①IPM ウォッチングデータ集約結果
- ②IPM ボランティアのマニュアル管理
- ③IPM メンテナンス実験解析結果
- ④土人形のクリーニング
- ⑤熊本城天守閣における資料展示環境の整備
- ⑥飛翔性昆虫類の防御力強化その 1
- ⑦飛翔性昆虫類の防御力強化その 2
- ⑧九州国立博物館の IPM ハザードマップ その 1-ヒメマルカツオブシムシの出現とその対応-

19 年度第 2 回

- ⑨タバコビートルの生態と駆除
- ⑩IPM メンテナンスの改善事例 その 1
- ⑪博物館周辺で見られる文化財加害昆虫

19 年度第 3 回

- ⑫九州国立博物館周辺の自然環境-ガラス壁衝突鳥の調査から-
- ⑬環境ボランティアの活動について
- ⑭露出展示に於けるタケトラカミキリムシの加害事例

19 年度第 4 回

- ⑮山笠の虫
- ⑯文化遺産の大害虫 シバンムシを巡る取り組み
- ⑰九博の IPM 事情 このごろ

(歴史資料文化財用燻蒸庫第 1 号機)

19 年度第 5 回

- ⑱文化財保存事始め
- ⑲IPM 導入の背景と九州国立博物館一構想・設計段階や建設中のエピソード-
- ⑳IPM 活動を振り返って-インジケーターの観察
- ㉑IPM 活動を振り返って-IPM メンテナンス
- ㉒IPM 活動を振り返って-IPM ウォッチング
- ㉓IPM 活動を振り返って-温湿度管理-
- ㉔IPM 活動を振り返って-ボランティア活動報告

20 年度第 1 回

- ㉕九州国立博物館の IPM 体制の現状と課題
- 20 年度第 2 回
- ㉖九州国立博物館の IPM 活動、5 年間の歩み
- ㉗博物館、美術館、図書館の IPM、近年の動向
- ㉘ある美術館の IPM プログラム
- ㉙3 年間の活動を振り返って -IPM ウォッチングを中心として-
- ㉚第 2 期ボランティアとしての活動に向けて
- ㉛IPM 活動への支援 -収蔵庫メンテナンスと実習補助-
- ㉜IPM 活動への支援 -収蔵庫メンテナンスと実習補助-
- ㉝文化財保存と IPM、ミュージアムでの実践

と課題

20年度第3回

- ⑭ 博物館の危機管理としてのIPM その1
 - ⑮ 搬入に伴う収蔵庫内の生物採集状況
 - ⑯ 収蔵庫高所清掃および二重壁内の塵埃・生物生息調査
 - ⑰ 搬入に伴って発生したダストの分類事例
 - ⑱ 搬入資料の塵埃・虫糞・脱皮殻等の汚れの詳細調査
 - ⑲ 九博内捕獲昆虫同定の結果についての報告
- 20年度第3回
- ⑳ 博物館の危機管理としてのIPM その2
 - ㉑ 博物館の建設とIPM -作り手から見た九州国立博物館収蔵庫-
 - ㉒ 博物館の開館とIPM -PCOから見た九州国立博物館-
 - ㉓ 博物館と市民活動 -NPOと博物館-
 - ㉔ 博物館と市民活動 -サポーターの在り方とIPM-
 - ㉕ 博物館と市民活動 -ボランティアから見たIPM-

①から㉕まで、「市民協同型IPM活動に関する研究会—発表の記録と資料」に全文収録。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① 本田光子、市民と共に歩む博物館のIPM活動—九州国立博物館の取り組み—、文化財の虫菌害、第53号、pp3-pp8、2007年、査読無

[学会発表] (計10件)

- ① 本田光子、糸井茂、新原茂春、田中信子、博物館における環境ボランティアの取り組み その2—九州国立博物館のIPM活動4一、文化財保存修復学会第29回大会、2007年6月16日・6月17日、静岡市民文化会館
- ② 本田光子、三輪嘉六、九州国立博物館の環境マネジメント その4—博物館におけるIPM活動の展開一、文化財保存修復学会第29回大会、2007年6月16日・6月17日、静岡市民文化会館
- ③ 本田光子、東昇、新原茂春、田中信子、川越和四、森田レイ子、博物館における木質系収蔵庫のメンテナンスその2—九州国立博物館のIPM活動5一、文化財保存修復学会第29回大会、2007年6月16日・6月17日、静岡市民文化会館
- ④ 本田光子、下川可容子、森田レイ子、福西大輔、櫻井伸一、熊本城天守閣内における資料展示環境の整備—IPM活動に向けた取り組み—、文化財保存修復学会第29回大会、2007年6月16日・6月17日、静岡市民文化

会館

- ⑤ 本田光子、三輪嘉六、九州国立博物館の環境マネジメント その5—博物館におけるIPM活動の実践一、文化財保存修復学会第30回大会、2008年5月17日・5月18日、九州国立博物館
- ⑥ 本田光子、江口みどり、山崎久美子、安藤英崇、谷嶋正勝、新原茂春、松田隆、川越和四、櫻井伸一、博物館のハザードマップ文化財害虫の出現とその対応—九州国立博物館のIPM活動6一、文化財保存修復学会第30回大会、2008年5月17日・5月18日、九州国立博物館
- ⑦ 本田光子、山崎久美子、江口みどり、今津節生、鳥越俊行、齋藤俊久、福田耕治、川越和四、櫻井伸一、伝統行事公開展示等に伴う文化財害虫と付き合う—九州国立博物館IPM活動7一、文化財保存修復学会第30回大会、2008年5月17日・5月18日、九州国立博物館
- ⑧ 本田光子、糸井茂、井上誠男、田中信子、岸川勲、博物館における環境ボランティアの取り組み その3—九州国立博物館のIPM活動8一、文化財保存修復学会第30回大会、2008年5月17日・5月18日、九州国立博物館
- ⑨ 本田光子、森田レイ子、石上夕希子、赤司善彦、河野一隆、博物館における露出展示資料のメンテナンス—遣唐使船模型の日常管理—、文化財保存修復学会第30回大会、2008年5月17日・5月18日、九州国立博物館
- ⑩ 本田光子、下川可容子、小島理美、森田レイ子、森井啓次、東昇、新原茂春、文化財収蔵庫のメンテナンス—九州国立博物館の木質系収蔵庫の例—、文化財保存修復学会第30回大会、2008年5月17日・5月18日、九州国立博物館

[図書] (計0件)

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

○取得状況 (計0件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

本田光子 (HONDA MITSUKO)

独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部博物館科学課・課長

研究者番号：60289642

(2) 研究分担者

森田 稔 (MORITA MINORU)
独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部・部長
研究者番号：20393192
三輪 嘉六 (MIWA KAROKU)
独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・館長
研究者番号：00222422
今津 節生 (IMAZU SETSUO)
独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部博物館科学課環境保全室・室長
研究者番号：50250379
藤田 励夫 (FUJITA REIO)
独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部博物館科学課保存修復室・室長
研究者番号：00416554
鳥越 俊行 (TORIGOE TOSHIYUKI)
独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部博物館科学課環境保全室・研究員
研究者番号：80416560
志賀 智史 (SHIGA SATOSHI)
独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館・学芸部博物館科学課保存修復室・研究員
研究者番号：90416561

(3) 連携研究者

なし